

紙版 **ハコブネ×ブックス** vol.16

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐwebサイトです。



羊の告解

作者 いたうみく
出版社 静山社
発行 2019年3月
ISBN 978-4863895034

review



特集

問題作の問題点

センセーショナルな題材を扱った作品が**問題作**と呼ばれることがあります。リアリズム児童文学では、扱われる題材が**衝撃的**であればあるほど話題となりますが、**問題の事象**にばかり注目が集まると、物語に結ばれた**大切なもの**が見過ごされてしまいがちです。そこが**問題作の問題点**です。今回、紹介するのは、難題に直面した子どもたちが、戸惑いながらも成長していくプロセスが描かれた、いずれも読みごたえのある**優れた物語**です。かきりない友愛をもって、子どもたちが互いを支え合い、**問題に立ち向かう**いたわしい姿こそが注目すべき点です。本来は**大人が解決すべき問題**であり、子どもたちへのサポートやメンタルケアが不十分な社会への要請も訴えられています。子どもが守られていない**未成熟なこの社会**を生きぬいていく中学生たちの掛けない気持ちを、**問題作**の中に感じとって欲しいと思います。

中学三年生の涼平の父親が、ある朝、突然に訪ねてきた**警察に連行**されたことで、母親と小さな弟との四大家族の平穏な朝の食卓風景は一変します。なにも説明を受けないまま、心配し続ける家族はやがて、**父親が知人に暴力をふるい殺害してしまっ**たという事実を知ります。優しかった父親が、なぜ殺人を犯したのか。面接をこぼむ父親からは一切の言い訳もなく、家族はどう歩み寄ればいいのかさえわかりません。住んでいた家を離れ、転校し、母親の旧姓を名乗る涼平は、生活の変化に加え、**自分が殺人者の子ども**であることに苛まれます。親の贖罪を子どもが担うべきなのか。涼平は非情な運命とどう和解し、人生を歩んでいけばいいのか。次第に多くを慮れるようになる涼平の**過酷な成長**の物語は、罪を悔い人を悼むことについて深く考えさせられます。



セカイの空がみえるまち

作者 工藤純子
出版社 講談社
発行 2016年9月
ISBN 978-4062202183

review



韓国をはじめとして、中国や東南アジアなど色々な国の人たちが店を並べるまち**新大久保**。中学二年生の女子、空良が外国人に憎悪をぶつける**ヘイトスピーチ**でした。自分たちの正しさを振りかざし、人を傷つけ追い込んで行く姿に空良は胸騒ぎを覚えます。新大久保の外国人アパートに暮らし、空良の中学に越境して通う同級生の男子、翔との関わりから、空良も新大久保の人たちと親しくなり、**自分が知る世界とは違う空**がここに広がっていることを感じます。失踪した父親を探す空良と外国人の母親のことを気に病む翔。偏狭になっていくばかりのこの世界の中で、**同志めいた繋がり**を持った中学生二人が自分を見つめ、広がる世界を希求していきます。**閉塞したこの社会**に抗う、清新な祈りと願いに満ちた物語です。



with you

作者 濱野京子
出版社 くもん出版
発行 2020年11月
ISBN 978-4774330785

review



家族との関係がうまくいかず、わかまるものを抱えた中学三年生の悠人は、気晴らしの夜のジョギングで、公園のブランコに座っている**淋しげな女の子**と知り合います。違う中学に通う二年生の朱音は、当初、悠人を警戒しますが、次第に親しくなり、病気の母親と小さな妹の面倒をひとりで見ている自分の**家庭の事情**を打ち明けます。普通の中学生的ような毎日を送れない、どこか思いつめた様子の朱音に、悠人は同情以上の気持ちを抱きはじめます。子どもが一人で家族の世話をす**るヤングケアラー**。誰かの助けを必要としながら、窮状を誰にも訴えられず**孤立化**してしま**う子ども**がいます。朱音が支援されるために悠人に何ができるのか。互いを思いやりながら**一緒に生きていく**。二人の未来を予見させる結末に陶然とする。ビターで甘やかな物語です。



団地のコトリ

作者 八束澄子
出版社 ポプラ社
発行 2020年8月
ISBN 978-45911167243

review



市営団地に母親と二人で暮らし、中学二年生の美月は、父親の死から立ち直れないまま不安定な気持ちを抱えていました。ある日、美月は、同じ団地の一人暮らしのお年寄り、家族がいはいずの柴田さんの部屋に、女の子がいることを察します。その部屋に**学校にも通わないまま隠れ住んでいたのは**、小学五年生の女の子、陽菜でした。社会に適應できない母親のために、**居所不明児童**として危うくこの世界に生存している陽菜のことを美月が知った時、事態は取り返しがつかない段階に進んでいます。自分もまた脆弱な**コトリ**である美月が、**ヒナ(陽菜)**を掌にいたたく、震えるような気持ちで描き出された物語です。愛しく思いながらも、年下の子に上手く接することができない美月のもどかしさや、その**慈しみやまなざし**のあたたかさ心動かされます。

特集 問題作の問題点



小学生もまた**問題**と向き合っています。やりたくなかったクラスでの給食委員に選出された五年生のゆうなは、**給食の残菜(食べ残し)**の問題を通じて**食品ロス**に挑むことになりました。栄養価、法制度、栄養士と調理師の人間関係にまで言及するこの物語は、子どもであることの**無邪気さ**を越えていく覚悟をも描き出す快作です。



がんばれば給食委員長 (中松まるは) あかね書房 2018年

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.16

2021年1月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト **ハコブネ×ブックス** (非営利) を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。



© tomoostretch